

第 1 期中期目標期間の達成状況に関する評価結果

東京芸術大学

平成 2 3 年 5 月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(参考)

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 教育の成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2項目）のすべてが「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2項目のすべてが「良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「我が国芸術文化向上に多大な貢献を果たしてきた本学の芸術教育伝統を継承し、伝統的な芸術表現手法及び自己表現手法の獲得を一層強力に推進するとともに、新しい芸術表現・自己表現手法の獲得のための教育も積極的に展開していく」について、先端芸術表現科・音楽環境創造科・大学院映像研究科の開設、大学外施設の多様な利用（藝大アーツイン丸の内等）は、伝統的な芸術分野に加えて新領域に踏み込み、幅広い芸術教育が実質的に機能している点で、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「学部卒業作品・演奏・論文、大学院修士博士論文・作品・演奏の Web 公開など、教育成果の公表システムを充実させる」について、大学美術館・奏楽堂、各校内の展示スペースでの公開、学外からの演奏依頼についても成果発表の機会として学生に紹介し、毎年数多く行っていることは、成果の発表等において直接的な社会

との連携を重視している点で、実質的に機能しており、特色ある取組であると判断される。

② 教育内容等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4 項目）のうち、1 項目が「良好」、3 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「良好」、3 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

(優れた点)

- 中期計画「地域社会や学外機関と連携し、フィールドワークや調査研究、演奏やワークショップ等実践的な授業を教育課程に取り入れる」について、台東区・取手市・横浜市・足立区においてワークショップやフィールドワークに積極的に取り組み、その取組の多くは実技科目の課題あるいは演習科目の授業内容の一部として取り入れられたことは、学生が創作者、演奏者あるいは教育者としての実践を積む場となっており、社会との連携を進める芸術教育の実施という点で、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「大学美術館・演奏芸術センター・芸術情報センターの授業開設などによる実践的な教育参加を推進する」について、コンサート制作等実践的な教育内容を深化させていることは、特色ある取組であると判断される。

③ 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4 項目）のうち、1 項目が「良好」、3 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「良好」、3 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合

的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画「各部局、学科が目的、特性、授業形態等を再検討の上、教育課程・授業科目の見直しを行い、それに即した教員配置を行う」について、国立唯一の芸術大学にふさわしい教員を質量ともに確保し、大学美術館・奏楽堂等の充実した教育環境を整備していることは、広い分野を網羅した総合的芸術教育を行っている点で、優れていると判断される。
- 中期計画「各部局、学科が目的、特性、授業形態等を再検討の上、教育課程・授業科目の見直しを行い、それに即した教員配置を行う」について、専任教員と協同して学科等の運営や実技指導の補助にあたる者を配置していることは、実技中心の教育の成果を上げるために、兼務教員を多数擁し、教育研究助手制度を導入して効果的な教育体制を実現した点で、優れていると判断される。

（改善を要する点）

- 中期計画「学生による授業評価を行うとともに、教員による相互評価について詳細に検討し、導入を図る」について、教員による相互評価が制度として実質的に行われているとはいえないことから、中期計画は十分には実施されていないと判断される。

（平成16～19年度の評価で指摘した「改善を要する点」の改善状況）

- 平成16～19年度の評価において、
中期計画「学生による授業評価を行うとともに、教員による相互評価について詳細に検討し、導入を図る」について、学生による教員評価の制度化、教員による相互評価は十分に実施されているとはいえないことから、改善することが望まれる
と指摘したところである。
平成20、21年度においては、平成21年度より全専任教員を対象とした学生による授業評価を実施しており、各教員にフィードバックされていること等から学生による教員評価の制度化はなされているが、依然として教員による相互評価が制度として実質的に行われているとはいえないことから、当該中期計画に照らして、改善されていないと判断された。

④ 学生への支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 平成16～19年度の評価結果は「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2項目）のすべてが「おおむね良好」であっ

たことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2 項目のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

（Ⅱ）研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 「研究に関する目標」に係る中期目標（2 項目）のうち、1 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

（参考）

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 「研究に関する目標」に係る中期目標（2 項目）のうち、1 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

（判断理由） 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2 項目）のうち、1 項目が「非常に優れている」、1 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「非常に優れている」、1 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

（優れた点）

- 中期計画「常に新しい芸術表現を模索し、各分野が有機的に結合した創造活動を展開する」について、学科・専攻としての組織的な研究の成果や、学科・専攻等の枠を越えた連携の成果を発信し、領域を超えた協業による研究成果の発表によって、音楽分野の「和楽の美」、美術分野の「五色界」等の、学科・専攻等の枠を超えた積極的な試みが行われるなど、新たな表現活動を生み出していることは、優れていると判断さ

れる。

（特色ある点）

- 中期計画「様々な企画を推進し、研究成果を他の機関と協力しながら社会に発信する」について、「エルンスト・バルラハ展」（エルンスト・バルラハ・ハウス、エルンスト・バルラハ財団との連携協力）、「ルーヴル美術館展」（ルーヴル美術館との連携協力）等、大学美術館の積極的な活用による国際的なコラボレーションが実施されていることは、特色ある取組であると判断される。

② 研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4 項目）のすべてが「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、4 項目のすべてが「おおむね良好」であることから判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画「全学的な視点から重点的に推進すべき教育研究を審議する体制を整備するとともに、それに従って、学内における予算配分を公正かつ効率的に配分する」について、学長裁量経費による公募プロジェクト研究が実施されていることは、具体的な成果として、取手市との連携による若手アーティストの共同アトリエ「井野アーティストヴィレッジ」が開設されている点で、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画「教員個人の学内外における研究創造活動を支援する体制を構築する」について、大学美術館や奏楽堂の運営助成、並びに学内外での成果発表への助成や教育研究活動や環境整備の充実を図るために、広く賛助金を募集する「藝大フレンズ」を設置したことは、外部資金の導入に積極的に取り組んでいる点で、特色ある取組であると判断される。

（Ⅲ）その他の目標

（１）社会との連携、国際交流等に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1項目）が「良好」であることから判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1項目）が「良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 社会との連携、国際交流等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（1項目）が「良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「良好」であることから判断した。

<特記すべき点>

（優れた点）

- 中期計画で「自治体や学外機関等と共同して保存修復支援、様々なレベルでの芸術教育提供・支援、芸術鑑賞提供・支援等に積極的に取り組む」としていることについて、取手市・横浜市・足立区・台東区において「取手アートプロジェクト（TAP）」・「上野タウンアートミュージアム（UTM）」・公開講座を行い、多くの学生の企画への参加、「社会と連携した芸術教育プロジェクト」（大学院学生の教育研究指導に社会と連携した活動を取り入れたもの）の実施により、教育と地域振興の両面から高い評価を受けていること、またシンポジウム、演奏会の他、区内の教員のリカレント教育、保存修復支援等幅広い活動を行っていることは、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画「様々な自治体、企業、各機関との連携のもと積極的に大学の人材、資産を活用できるように体制を整備する」について、台東区（T）・荒川区（A）・墨田区（S）・葛飾区（K）が策定した TASK プロジェクト（地域産業の活性化を図るため、4区に存在する様々な地域資源を最大限に活用しながら、消費者ニーズにあった新商品等の開発等に結びつけていくプロジェクト）において、学生等との継続的な交流を目標とした「交流会」を定期的に開催するなど、現代の芸術潮流にのっとり学生を伴う地域との連携を行っていることは、特色ある取組であると判断される。